

第3回未来デザイン部会(5/13開催) 主な意見

キーワード(案)	内 容
自転車道と歩道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車道と歩道を一緒にするのであればマナーを守らせないと難しい。 ・ 思い切って自転車だけの道を造ってもいいと思う。 ・ 将来的に造るときは、自転車専用道、歩道専用道というような形にして、ヨーロッパのコペンハーゲンみたいな町並みになれば良い。 ・ 車道と、自転車道とレーンを分けることぐらいであればお金もそこまでかからないので、そういうことに力を入れていくのも一つの方向性。
地域の人主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の魅力を高めていくのは、やはりそこに住んでいる人。 ・ 地域の人主体性は重要で、良いと思ったものを磨くからこそ地域の魅力が高まり、外からも人がやってくる。
伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化を地域で引き継ぐということが大切。そこから魅力的な地域になり、外から人が一緒になって伝統文化をやっていける。文化も高めて、移住もしてもらえる。
新たな商店街の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の中に保育園が出来たら、今まで来なかったような若いお母さんが商店街を通ることになり、そういうお母さんのニーズを満たすようなお店が出店されたら商店街の活性化につながる。 ・ コワーキングスペースやシェアオフィスで交流が生まれて何か新しいものが生み出されるようなこともあるかもしれない。
ため池での水素発電	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素はこれからかなり進んでいくのではないかな。 ・ 水素を作るには水が必要で、地域に沢山あるため池が水素発電に使えるのではないかな。 ・ また、ため池の水素発電を地元の教育に活かせば良い。
脱炭素の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化炭素を出さない発電の仕組みはかなり進んできている。 ・ 重工業が多い東播磨地域では今後どのような取組を考えていくかということは悩ましい問題。
ゼロエネルギー住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 兵庫県についてもゼロエネルギー住宅を進めているように聞いている。災害で発電所が停電したとしても、その地域の電力が供給されていくような仕組みをその街でつくっていく。

避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年に1度の豪雨で加古川が氾濫すれば、法華山谷川と別府川の間は殆ど浸かってしまう。そのようなことになれば避難場所の運営も難しくなるので、広域に避難所を設置することも検討した方が良い。 ・ 身近なスケールでの避難所と広域避難所の2種類が必要ではないか。 ・ 北播磨なども含めた広域で避難を考えていかないといけない。
不漁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東播磨の特性で「豊かな漁場」「海の幸が豊富に採れ」とあるが昔の話で今はもう少なくなっている。
豊かな海	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海底耕耘を行ったり、ため池の水を流すことで海に栄養塩を補給するなど、栄養を増やして豊かな海にしていく取組が続いている。
新しい食糧生産 海上ファーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界では人口が増え続け、今まで魚介類を食べなかった国でも魚介類を食べてくるようになった。一方日本では農業を辞めていく人もいる中で、食糧は足りなくなる。そうなる中で新しい食糧生産の方法が生まれてくる。 ・ 海上ファーム、海の上で太陽光発電をつけて海水を真水に変え、上で野菜を作って海の中では魚を養殖する。 ・ 海外から簡単に食糧の輸入ができなくなれば、自給自足を怠ってきた日本はこれからどうなるのか。
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化等で農業をする人が少なくなっている。空いている農地をどうすればいいのかとなる一方、技術革新も進み、どんどん食糧は確保されていく。農業を少しでも残していくのであればどうしたらいいか。